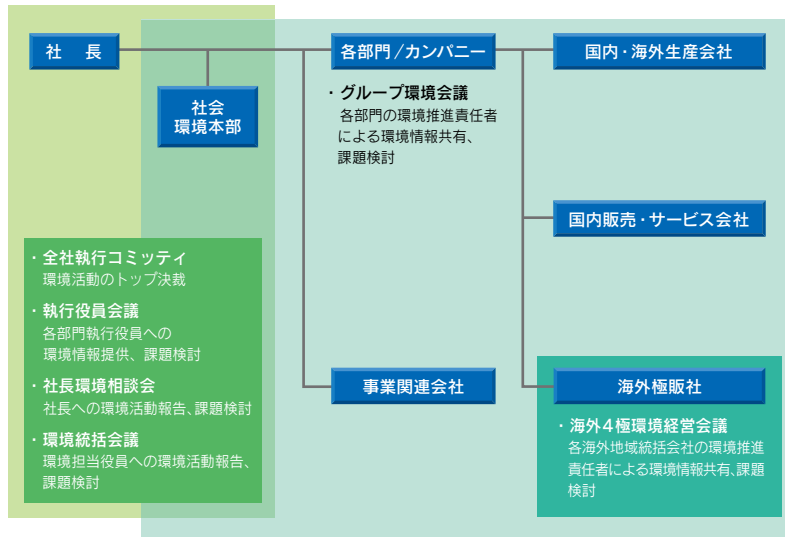


経営上の意思決定と環境施策の意思決定が一体となった新しいマネジメント体制で環境経営を進めています。

環境マネジメントシステム (EMS) は、グローバルな環境経営を推進するリコーグループにとって、重要なツールのひとつです。各事業活動のプロセスにEMSを組み込んで環境経営を推進しています。経営トップが策定した環境行動計画は、各事業部門の目標に落とし込まれ、活動の結果がトップにフィードバックされる仕組みを構築し、グループ全体および事業部門ごとのPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回しています。また、全社の戦略的目標管理制度に「環境」の項目を取り入れ、部門別の業績評価を行っています。

リコーグループ環境経営システム組織図



環境マネジメントシステムの範囲の拡大

リコーグループの環境マネジメントシステムの範囲は、グローバルの連結対象会社*を対象としています。ただし、

M&Aなどで新たに取得した事業については、順次、EMSへの統合を行い、範囲に加えています。2008年度は、山梨電子工業がリコーグループのEMSに加わりました。

* 環境負荷データおよび環境会計データの収集範囲については、76ページをご覧ください。

グループ会社に聞く

INTERVIEW

山梨電子工業株式会社

リコーグループの一員として、長期的な視点に立った環境経営を進めています。



山梨電子工業環境専門部会のリーダー



品質保証部 部長

土肥 一仁

品質保証部 環境・標準推進室 室長

諸角 茂宏

グループ環境方針により、環境活動が変化

山梨電子工業は、2006年11月に新たにリコーグループに加わりました。当社も従来から環境方針を掲げていましたが、これを機にリコーグループの環境方針に移行しました。それによってとくに変わったのは、「環境保全活動と経営が同軸」「ステークホルダーと連携した活動の展開」「ものづくりの視点に環境を入れる」という点で、環境保全活動に対する取り組み姿勢が大きく変わりました。現在は、「省エネ」「廃棄物削減」「環境に優しい製品」「大気汚染物質対策」の4部会に分かれ、環境技術開発、省エネやごみゼロ活動、化学物質の管理・全廃活動などに取り組んでいます。

長期的な目標を見据えた環境施策を展開

また、グループ統合後、従来は1年単位で設定していた環境目標が中期行動計画の3年単位になりました。そして、その目標は長期的な環境目標、長期環境ビジョンからのバックキャストによって設定されています。このような長期的な視点に立った目標のおかげで、思い切った生産プロセス革新や設備更改が経営計画に組み込みやすくなり、2007年、2008年と2工場のボイラーエネルギー転換*が実現しました。今後も塩素系有機溶剤の全廃活動をはじめ、より質の高い環境経営を目指した活動を推進していきます。 [*：35ページ](#)

環境経営の考え方

特集/環境経営の環を拡げる

製品に関する取り組み

事業活動に関する取り組み

基盤 環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの強化とレベルアップ

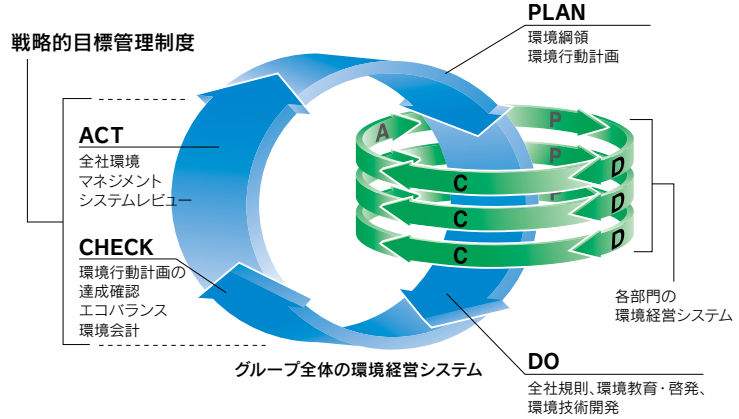
環境経営を実現するためには、事業活動と環境保全が別々に進むのではなく、同じ意思決定のもとで進められるのが効果的です。リコーグループは、環境マネジメント体制の強化を目的に、当初は事業所単位でISO14001の認証を取得してきました。1995年にリコー御殿場事業所がISO/DIS14001の認証を取得したのをはじめ、2000年3月には世界の主要生産拠点すべてが認証を取得。2001年には国内販売グループで一括認証を取得し、海外の販売会社でも積極的に認証を取得するなど、ISO14001の認証取得を通じた「全員参加による環境経営の風土づくり」を進めてきました。2007年2月からは、事業と環境の融合を図り、事業部門が主体となって環境保全活動に取り組むために、リコーおよび国内販売会社でISO14001統合認証を取得しました。これにより2008年度からの16次環境行動計画では、事業部門ごとの目標を設定し、事業部門が主体となった環境施策を多角的に展開しています。

※ ISO14001 認証取得状況については、ホームページをご覧ください。
<http://www.rioh.co.jp/ecology/base/iso.html>

戦略的目標管理制度

リコーグループでは、環境活動の評価基準を明確にし、部門の業績評価に結びつける仕組みとして、1999年から「戦略的目標管理制度」を導入しています。これは、1990年代にアメリカで開発された「バランスト・スコアカード」の4つの視点に「環境保全」の視点を加えた戦略的な目標管理の手法です。グローバルな環境経営を実現するために、リコーグループ全体に「戦略的目標管理制度」の展開を進めています。

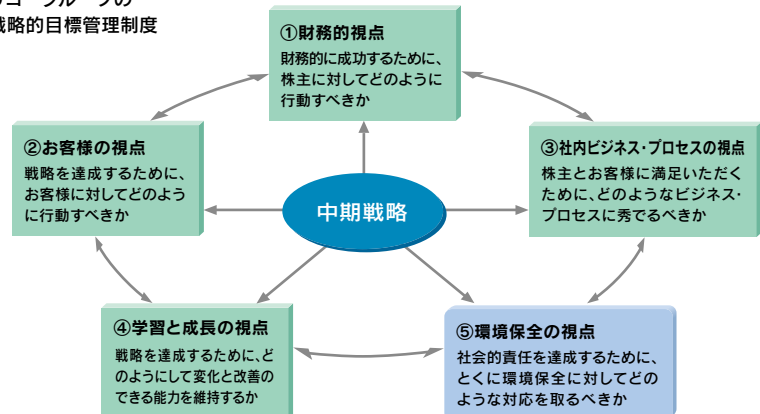
リコーグループの環境マネジメントシステム



EMS活動のレベルアップ



リコーグループの戦略的目標管理制度



全員参加の活動

リコーグループは「全員参加」を基本に、環境経営のレベルアップに取り組んでいます。「全員参加」とは、研究開発から製品設計、調達、製造、輸送、販売、保守・サービス、回収・リサイクルの各部門の一人ひとりが、自分の業務に環境の視点を取り入れて活動することを意味します。これらの活動は、利益創出を追求する「QCD活動*」と、ほぼイコールになっています。また、活動のレベルアップを図るために、グループ内ベンチマークも随時実施し、ノウハウを水平展開しています。

* 品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の管理改善活動

リスクマネジメント

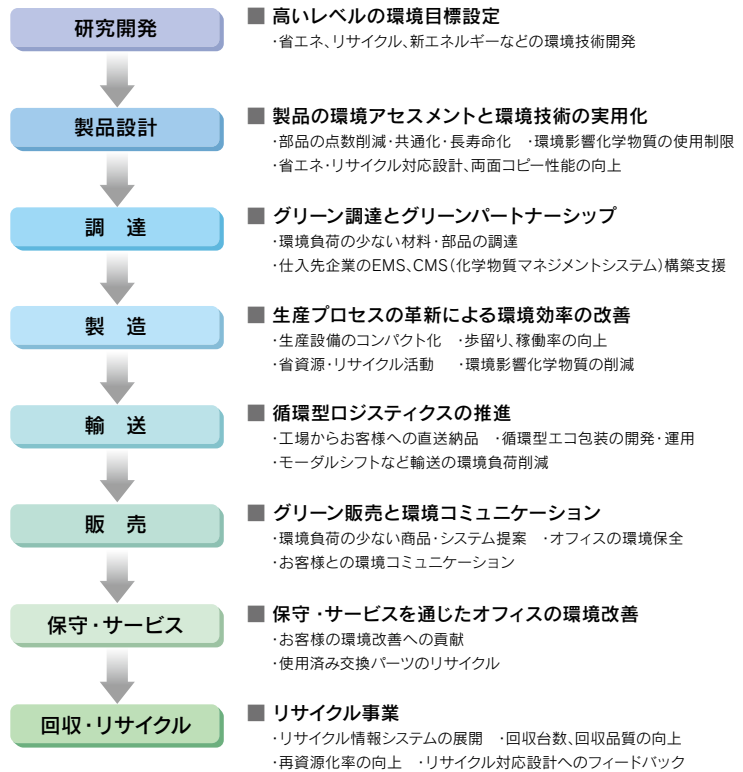
リコーグループでは、『リコーグループトータルリスクマネジメント基本規定』に基づき、PDCAサイクルによる内部統制機能としてのリスクマネジメントが実行されています。また、「クライシス*発生時の初期対応」では、クライシスの種類に応じてそれぞれの対応主管区や報告レベルが明確にされており、リコーの社長および関連する役員への逐次報告と社長方針に基づく応急対応策がなされます。環境に関わるクライシス発生時、またクライシスにつながりそうなレベルの問題の発生時の初期対応は、右記のフロー図に基づいて受付・報告・指示・対応・協議が行われます。

* 「クライシス」とは、発生したリスクが持続/拡大し、リコーグループの企業活動に極めて重大な悪影響を及ぼす事態となる状況のことをいいます。

環境に関する罰金・科料(リコーグループ)

	2006年度	2007年度	2008年度
件数	0	0	0
金額	0	0	0

全員参加の環境経営活動



環境に関わるクライシス発生時の対応フロー図

